

駅舎

嫌よ

駅舎のベンチで触れた白い腿
血管の透けた白い太腿

嫌よ

青魚のような肌触り
ひんやりとした

そこまでにして

わたしたちはなぜここに居る
次の便までまだ3時間

嫌

うちふるえるほどの手触り
脈打つ胸

わたしはやめない
時間と空間がわたしから逃げているのだから

ああ、わたしはここに居たい
ここに横になりたい

わたしはやめない
やめる必要を感じない

誰も来ないと知っているのだから
わたしはやめない

3時間が永遠であればいい
寒くても構わない

嫌よ

お前は帰りたいのか？
ばかな奴だ

いいえ
あなたはつまらない人ね

裏山の間からかすかに見える高い峰峯
その懐に住んでみたい

嫌よ

わたしはやめない
やめる必要を感じない

あなたは3時間を食いつぶそうと言うのね
くだらない

ああ、そうだ
食いつぶすのだ
そして3時間後には
不満たらたらな顔でお前と列車に乗るのだ

わたしはやめない
あと3時間ある・・・・・・・・

(2005.3.28)